

杉本基久雄市長の抱負

3期目の市長就任に当たり、杉本基久雄市長に、これからの「まちづくり」などについて抱負を聞きました。



9月に造成工事が竣工した
牧之原市IC北側土地区画整理事業

富士山型ネットワークの充実
東名相良牧之原IC北側地区の開発は、商業施設、産業施設の誘致によるにぎわいと雇用の場の創出、住宅用地の整備を通じた移住定住人口の拡大など、令和9年度のまちびらきに向け引き続き取り組んでいきます。
沿岸部の活性化については、静波地区では、「静波サーフスタジアム」を核とした一体性のあるエリアづくりを官民連携で進め、関係・交流人口の増加につなげるとともに、沿岸部のにぎわい創出を図るため、静波海岸周辺の地域づくりを進めています。相良地区は、さがらサンビーチや意次侯ゆかりの地などの豊富な資源を活用して、歴史と文化を生かした魅力あるエリア再生につなげていきます。地頭方地区については、マリンスポーツレジャーなど、にぎわい創出をテーマにした魅力ある地域づくりを推進していきます。

まちづくりの計画

今年度は第3次総合計画の前期計画3年目であり、今後は令和9年度からの後期計画の策定に向けて検討を進め、引き続き計画の推進を図っていきます。

はじめに、9月に発生した「令和7年牧之原市台風15号に伴う竜巻等災害」において被災された皆さまが1日でも早く安心した生活を取り戻せるよう、引き続き全力で取り組みます。
また、災害に強いまちづくりを進めるため、地域防災計画に竜巻災害を踏まえた計画の見直しを行い、さらに榛原地区に防災拠点の整備を進め、市民の皆さまの安心・安全につながる取組を確実に進めていきます。
本市が誕生して20年が経ちました。私は2期8年にわたり、市民の皆さまの安心と幸福実現のためにまちづくりを進めてきました。今後の4年間は、これまでの経験を生かし、市政のかじ取り役として皆さまの期待に応えることができるよう、市の未来を見据えた市政運営を行います。

引き続き、第3次総合計画に基づき各戦略プロジェクトを着実に進めていき、人口減少や少子化という大きな課題に歯止めをかけていきます。

市制20年の歩みを礎に

持続可能な未来へ

当選証書付与式にて当選者代表のあいさつをする杉本市長



牧之原市長 杉本 基久雄（すぎもと・きくお）

1957（昭和32）年牧之原市生まれの68歳。県立島田商業高等学校卒業。旧榛原町役場奉職。旧榛原町消防団副団長。牧之原市総務部長・副市長を歴任し、平成29年に牧之原市長就任。10月の市長選挙において3期目の当選を果たす。

ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現

オーガニックまきのはら推進事業については、荒廃農地においてバイオ炭を活用して、環境にやさしい農業の推進による付加価値を付けた農産物の販売を促進します。併せて、「波乗りレモン」のブランド化を推進し、日本一の国産レモン産地に向けて、生産者や販売店と連携を図っていきます。

また、静岡牧之原茶について、8月の「全国茶品評会出品茶審査会」の「深蒸し煎茶の部」において、当市が6年ぶり3回目の産地賞を受賞しました。「味と品質日本一の静岡牧之原茶」をキャッチフレーズとして、販売促進に関係者と共に取り組む、契約栽培や碾茶栽培の支援と販路拡大に取り組めます。

日本一女性にやさしいまちの推進

高台開発や沿岸部活性化による第3次産業の誘致で雇用の場の創出を図るとともに、女性の起業支援「月3万円ビジネス」を継続して行っています。

また、妊娠期から子育て期までの切れ目ない伴走型相談支援および子育て世帯の経済的な不安の軽減を図るため、妊婦支援給付金や妊産婦通院等支援助成金、入学支援金などの経済的な

支援、さらに、先進医療分を含めた不妊治療費や妊産婦の特定疾病医療費の助成も継続して支援します。

女性が働きやすい職場づくりや、従業員の職近接に市内企業と連携して取り組みます。

持続可能な行政運営への転換

市内公共施設をオンラインで予約できるシステムを導入するとともに、窓口に鍵の受け取りに行く必要がないスマートロックスシステムと利用料の電子決済システムを導入し、利用者の利便性の向上と行政運営の効率化を図っていきます。

また、広域行政については、1市2制度の解消に向けて、来年4月に牧之原消防署榛原出張所の開所、老朽化した市内2つの火葬場施設の統合や榛南水道と大井川広域水道の統合を推進し、さらにはごみ処理施設の集約化も検討していきます。

次代を切り拓く力を育む新たな学校づくり

「子どもたちが学びたい、保護者が学ばせたい」と思う学校づくりを推進します。予測困難な社会でも子どもが主体的に生きていく力を養えるよう、市内の小中学校を榛原地域と相良地域に1校ずつの施設一体型義務教育学校に整備するとともに、

9年間の中で計画的な学びの場を提供します。

榛原地域は令和12年度、相良地域は令和15年度の開校を目指して、関係機関と連携して整備を進めていきます。

健康で生き生きと暮らせるまちづくり

高齢者などが手軽に移動できる手段を確保するため、市内全域で運行しているデマンドタクシーについて、利用者などの意見や要望を聞きながら、さらなる利便性の向上を図ります。

また、さまざまな課題を抱える学齢期の児童が、放課後や夏休みなどに信頼できる大人や友達と安心して過ごすことができるように、「子ども第三の居場所」、「子ども食堂」などにより、子どもの居場所を確保し、子どもたちが安心・安全に暮らせるまちづくりを推進していきます。

対話により牧之原市をつくる

市民の皆さまとの対話を重視し、私の座右の銘である「できない理由を考えるのではなく、どうしたらできるかを考える」をモットーに、市民や市議会議員の皆さま、市職員とともに知恵を出し合い、まちづくりを進めていきますのでよろしくお願いたします。